

石川県七尾美術館だより

平成15年1月4日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第32号(冬号)



「冬季・所蔵品展 ~選ばれたモチーフ~」より

特別展示

ちんきいすいず
陳希夷睡図

長谷川信春(等伯) 天文8~慶長15(1539~1610)

桃山時代前期頃

縦 48.1 横 23.1 (cm)

当館蔵

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



展覧会紹介

平成十五年一月四日(土)～

四月十三日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

「冬季・所蔵品展」

一月四日(土)～二月二十三日(日)

今回の「冬季・所蔵品展」は、当館所蔵作品と一部寄託作品より、織部の魅力、選ばれたモチーフ、石川県の彫刻家の三つのテーマで、工芸、絵画、彫刻などを紹介します。

第一展示室 ～織部の魅力～

当美術館の中核をなす「池田コレクション」は七尾市出身で七尾市名誉市民でもある故池田文夫氏が生前に収集したコレクションで、特に氏が会社を設立し活躍された、岐阜県美濃地方にゆかりの深いやきものが充実しています。

今回は、その美濃焼と呼ばれる志野、織部、黄瀬戸、瀬戸黒の中から、織部焼の優品を紹介します。

織部の名は、桃山時代に活躍した茶人・古田織部に由来し、武士好みと言われています。その意匠は前衛的とも言えるような斬新なものが多く、中には当時日本にやって来た、南蛮人をモチーフにした燭台などもあります。

様々に表現された、斬新かつ味わい深い織部の魅力をお楽しみください。



「青織部南蛮人物燭台」
桃山時代

第二展示室 ～選ばれたモチーフ～

すべての作品にはモチーフがあります。作家たちは、それぞれに描きたいモチーフを選び、時には花を、ある時は人物を、そして、またある時には風景と向かい合います。

今回は、池田コレクションを含む所蔵作品と一部寄託作品から、絵画二十五点をモチーフごとに展示し、それぞれの魅力を紹介します。

また、特別展示として、平成十四年十月に七尾市が購入した長谷川信春(等伯)筆「陳希夷睡図」も初公開いたします。

初公開！特別展示



「陳希夷睡図」
長谷川信春(等伯)

・「陳希夷睡図」長谷川信春(等伯) 筆

描かれた人物は、等伯が自ら語って、それを日通上人が筆録した重要文化財『等伯画説』にも登場する、中国五代宋時代初期の隱士陳搏と考えられます。樹下において若に寄りかかり眠る様子が、どこことなくユーモラスな作品です。

本作品で特筆すべきは、左下部に捺された「信春」印です。これは、多くの狩野派絵師が使用する鼎形(壺のような形)で、この印が捺された作

品は現在三点しか知られていません。また、使用された時期について、二十歳代後半から三十歳代前半頃に使用した袋形「信春」印と、五十歳代頃から用いた「等伯」印との間、一時期にのみ使用されたものとして注目されています。すなわち、この作品は上洛後の等伯が様々な画派の絵を学び、晩年の長谷川派の土台を固めた貴重な時期に描かれたということなのです。

水墨画の小品ではありますが、以上のようなことに加え、筆致には晩年の等伯代表作へ続く特徴が見られ、また雪舟から等春、狩野派的な要素も確認されるなど、等伯研究において重要な作品と言えるでしょう。

第三展示室 ～石川県の彫刻家～

第三展示室では、石川県出身の彫刻家十人の作品を紹介します。

七尾市に生まれ、フランスにおいて著名な芸術家や文化人たちと交流し、高い評価を得た高田博厚が作り出すブロンズ作品、平柳田中に師事し日本美術院で活躍する一方、法隆寺の復元・修復にも参加した田中太郎が表現する木彫作品など、計十四点をお楽しみください。



「いないよ」
田中太郎

観覧料

	一般	個人	団体
大高生	280円	350円	280円
			220円

中学生以下無料・団体は二十名以上です。

「石川県ゆかりの作家たち」

「現代の女流洋画家たち」

三月一日(土)～四月十三日(日)

第二展示室

当美術館では、これからの美術界を担う新進気鋭作家の作品や動向に注目しています。

昨年は「石川県ゆかりの作家たち」若手日本画家の視点」と題して、県内で活躍している日本画家に焦点を当て、彼らの近年の作品を中心に展示・紹介しました。

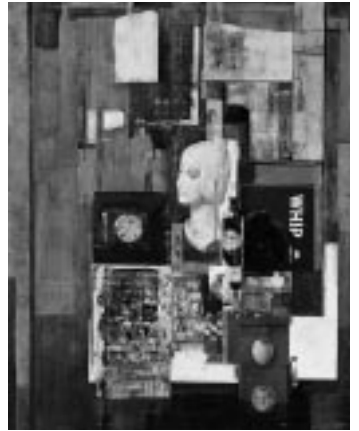
そして今年も、太平洋戦争後、芸術が再び民衆に近づいてきた時代に生まれた県内在住の女流洋画家に焦点を当て、それぞれ年代を追って展示します。現在、一水会、光風会、二紀会と異なる会派で活躍している、小倉尚子・小原瑛子・佐々波啓子・土田佳代子の作品、約二十点を紹介します。

これからの若手作家に刺激を与え、美術界を牽引する役割を担う立場にある、四十歳代から五十歳代の彼女たちは、常に技術を磨きながら前進し、描き続けています。

洋画というジャンルで、さまざまな素材や技法、表現を用いて制作された、個性溢れる四人の作品をお楽しみください。



「二人・暁」
佐々波啓子



「夏から秋へ(アトリエ)」
土田佳代子



「時刻の彼方へ」
小原瑛子



「異郷の風」
小倉尚子

共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	500円	400円	300円
中学生以下無料・団体は二十名以上です。	350円		

同時開催の「春季・名品展」と共通料金です。

「春季・名品展」

「池田コレクション」茶道美術品を中心に」

三月一日(土)～四月十三日(日)

第一展示室

今から約四五〇年前の桃山時代は千利休らの活躍によって「茶の湯」が大成された時期です。利休は国産のやきものにも価値観を見だし、盛んに茶席などで用いました。その為に国産の茶道具に対する需要が増し、国内の各窯で盛んに茶陶が制作されました。そして多くの茶人達の要望に応じる形で創造的な作品が数多く生み出され、その多彩さは日本の陶磁史の中でも特筆される存在となっています。

中でも代表的なやきもの一つが「美濃焼」です。「美濃焼」は十六世紀末に現在の岐阜県美濃地方で誕生したといわれますが、現在は黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部の四種に分類され、いずれも個性豊かな作風で広く知られています。

「池田コレクション」にはこの「美濃焼」を中心に多くの茶道具が含まれていますが、本展ではそれらの茶道美術品約三十点を紹介します。

観覧料は同時開催の「石川県ゆかりの作家たち」と共通になります。



「志野草花文足付香合」
桃山時代

「妙蓮寺の障壁画について」

講師 狩野 博幸

只今ご紹介にあずかりました狩野でございます。

毎年この美術館では、長谷川等伯にちなんだ展覧会が開催されていることはよく存じておりまして、いつかお話しすることもあろうかと思っております。

この妙蓮寺には、数多くの長谷川派と思われる襖絵がございます。現在残っておりますのは全部で三十八面（表裏）で、重要文化財に指定されております。それに附として柳の絵四面が加えられ、全部で四十二面（その内さらに天袋四面を合わせて）です。その内の一部分が、今回この美術館に来ています。

これらは、昭和の初期頃には狩野山楽筆と伝えられていたようですが、江戸時代初期以前の画派とか流派には、それぞれの癖というのがあります。一番よく表れるのが、皴法と言われる岩を描き方です。木の幹を描く時にも出ますが、流派によって独特のものがあります。そういうことから、これは狩野派ではなく長谷川派であるかと考えられるようになったわけです。

妙蓮寺は、非常に古い歴史をもっております。開創は永仁二年（一一九四）、鎌倉時代です。まず注目すべきことは、天正十五年（一五八七）秀吉の時代、日舜上人という方が妙蓮寺を復興しています。この十五年に秀吉が聚楽第を作るといので、移転を命じられるわけです。今残っている妙蓮寺は、この移転させられた場所であります。この寺ノ内に移ってから、秀吉、或いは豊臣家の庇護のもとに、大々的に発展していくわけです。この日舜上人が亡くなったのが慶長十六年（一六一一）、この前年に等伯は亡くなっています。

秀吉の養子である秀次のために作られた聚楽第、これは破却されますが、その壊された建物は京都の色んなところに引き取られていったわけです。日舜上人が再建する時、聚楽第の中にあつた建物を拝領して大方丈が再建されたというふうに、妙蓮寺では言われてい

ます。ところが、この日舜上人の後を継いだ日源という人が、京都の方広寺大仏殿の残木をもらって、元和元年（一六一五）に妙蓮寺仏殿（本堂や方丈）を建てたという記録もあるわけです。この日源は、元和八年（一六三二）に亡くなっています。方丈が、一方では聚楽第の建物を持ってきて建てたと言われ、もう一方では日源さんが建てたという言葉があるわけです。ですから、もし長谷川派の障壁画が妙蓮寺にあつたとしても、恐らくこの方丈にあつたに違いないんです。しかし、それがいつ建つたのかということが、一つの隘路になってきます。例えば、元和の初め頃に建つたすると、等伯はすでに死んでおりますから関わるはずはないとか、しかし、日舜上人が没したのが慶長十六年、その以前に聚楽第の建物をもたらつて方丈を建てたということになると、等伯関与の可能性があるということなんです。

そして、もう一つ大事なことは、江戸時代中期の天明八年（一七八八）正月、東山の方から火が起り、京都市内の殆どが焼けるわけです。この時、妙蓮寺も全部焼けています。現在ある妙蓮寺というものはそれ以後に建てられたものですから、天明の火事以前と以後ということを考えなければならぬのです。現在の妙蓮寺の奥書院というところにこの障壁画が入っており、この障壁画が天明の火事以降に再建された妙蓮寺に、再建するにあつた他のところにあつたものを運んできたかということが、一つ考えられるわけでありまして。また一つは、今申しましたように元々妙蓮寺にあつたものが、その火事の最中に救い出されて残り、それが再建された奥書院と玄關の間に入ったと。そういう二つのことが考えられる。土居先生は「大本山妙蓮寺史」という本の中で、先生たちの個人的な体験と結びつけて書いておられます。第二次世界大戦後に、智積院が火事になりました。もちろん、等伯或いはその一門が描いた障壁画があります。智積院と博物館というのは道路一本隔てあるわけで、その時に博物館の学芸員が直ちに火事の現場に入り、引き出せるものは引き出して、引き出せないものはナイフで切つて運び出した

わけですね。ですから、現在残っている智積院の障壁画は、そういうふうにして助け出されたものです。その時の体験を、土居先生は非常に重要に思っております。土居先生の言葉を引用しておくと、「現存の画面は、緊急の折に運び出しやすい襖絵に限られて、大画面の壁貼り付けと思われぬものがないという事。さらには脇の間・玄關の間の襖絵の如く、残欠画面の寄せ集めの見出される点のあることから、妙蓮寺障壁画も当初から同寺のために制作されていたものが、この火事の時にその一部分が救い出されて、残つたものである」というふうに言っておられます。この時点で、この妙蓮寺障壁画がいつたい本当に妙蓮寺にあつたのかということが分れば、また妙蓮寺と長谷川派との関係を述べることができるようになるし、少なくともその時からあつたということが、なにかで言えないかということで、資料を用意いたしました。

まず、図一と図二というのがございます。図一は、天明大火以前の妙蓮寺の図面です。図二が天明大火以後の再建された妙蓮寺が描かれております。まず、天明大火後の絵の左下に門があり、これが南になるわけです。ずっと入つて左の方へいくと、本堂が大きく描かれております。本堂の裏側に廊下があり、その突き当たりが玄關があつて、その左側に仮方丈が描かれております。それから玄關の左側に庫裏があり、その後ろに大きく書院というのが描かれております。この書院というのが、元この重要文化財がはまっていた奥書院、そして玄關の間という建物にあたるかと考えております。つまり現在の妙蓮寺というのは、火事の後の形なんです。では、火事の以前の形はどうなっているのかと言いますのが図一です。まず下の方から大門を入つて鐘樓がある。これはいっしょですね。それからずっと境内を歩いて本堂があり、そして西に祖師堂というのが描いてあります。この本堂と祖師堂は、巨り廊下で繋がっております。つまり焼ける前の妙蓮寺の大きな違いは、この本堂と、本堂の横に祖師堂があるということとです。この本堂が元和元年に建てられたということ、は、年号もはっきり分かっております。その後ろ、つ



(圖一)



(圖二)

まり北側を見てくださ
い。まず鼓
樓があり、
その下を通
つて廊下が
あり玄関が
あります。
図二の玄関
と較べます
と、非常に
小さい玄関
であると分
かります。
それから庫
裏があり、その西側に方丈があるわけです。これは東
西十二間、南北九間とここに書いてありますけれど、も
大きな方丈であります。焼けた後の書院の建物と較べ
ますと、図一の小書院というのは小さいものであつた

ということがわかります。そうすると、もしこの障壁
画があつたとすると、方丈にあつたに違いないわけ
ですね。或いは、先ほど申しましたように本来そこには
なにも無く、天明八年以後再建される中にあつた、
現在のように奥書院が作られ大きな玄関が作られて、
そこにどこか廃寺になつたお寺などからは運ばれてき
たと。いずれにしても、その二つの可能性というのが
残るわけであります。ところが、図三を見てください。



(圖三)

これは、幕府にお寺
の広さであるとか、
公文書で出すわけ
ですね。その図面なん
です。この図面が作
られたのが、天明八
年の火事よりもおよ
そ四十年早い「寛延
元辰辰年」と書いて
あります。一七四八
年、火事より前のこ
とだということが、
分かると思います。

(圖四)

北		間 佛	間 繪 墨
上 段			間 之 柳
	松	N	間

先ほどの図一、火事の前の姿を描いたものとほぼいっ
しよの姿をしています。先ほど申しましたけれども、
門を入れて境内の方が上がって、本堂と祖師堂とい
うのが並んでおります。この寛延元年の時には巨り廊下、
この本堂と祖師堂の間に巨り廊下はなかつたことが分
かるわけです。そして、それをさらに北の方へ入って
いきます。ここに玄関というのが小さく書かれていま
す。その奥に方丈がありますが、拡大しましたのが
図四であります。まず北、が上段の間、そして、
、の部屋がございまして、ここに松之間と書いて
あります。そして、番、これが佛間であります。そし
て、次の部屋が二つに分かれておりまして、柳之間と
いうのと墨繪間というのが書いてあります。というこ
とになりますと、この松之間というのがいつたいなん
なんだということがなってくるわけです。先ほどの重
要文化財に指定されているそれぞれの題名を申してお
きますと、一つは「松桜図」です。「松桜図」という
のがあります。そして、玄関の間の「松桜図」です。
つまり我々は、桜が非常に目立つので、まず松桜とか
松桜桜とかいいますが、ここにおいて全てに共通する
のは「松」なんですね。この松之間という名前から、
これが妙蓮寺の障壁画ではないだろうかという推測が
言えるわけがあります。実はこれは、決定していいん
です。というのは、この重要文化財に指定された三十
八面、その附けたりとして「柳図」四面が入っている
わけですが、つまりその「柳図」はこの、番の柳之間
なんです。つまりこの「松之間」という松だけであれ
ば、松桜桜とか松桜ということになって、決定的な証
拠にはならないわけですが、ここに柳というのが入っ
てきていますから、実はこの「柳之間」と「松之間」
というのは、時代が一致するものなんですね。そうす
るとこの「柳之間」というのがいつしよに残っている
ということとは、この「松之間」というのが、松桜桜・
松桜図を含むこの妙蓮寺障壁画ということで、まず蓋
然性としてほとんど認められるということになります
し、むしろ妙蓮寺に元々この襖絵があつたということが、
確実になつてくるわけです。そういうふうな確実

になってくると、後問題になってくるのは、聚楽第から運ばれた建材を使った建物が早い時期、例えば文禄とか、そういう時代に作られたか、或いはもつと後の等伯が慶長十五年に死んだ後に作られたものかという可能性です。けれども、少なくとも三十八面及び附けたり四面が、はっきりとここから見えてくるわけであります。これから可能性を示していきますと、まず「松之間」の、番の部屋は北側が四面、そして東側が四面ということになるでしょう。番も普通には、北側四面西側四面ということになる。そして番、方丈で言いますといゆる室中という部屋ですね。番の部屋は、西側と東側が四面ずつということになるわけです。この北側は、八面というような細い襖で作られるのが普通です。そうしますと、最少で四面として

の部屋で二十八面があるということが推定できるわけです。それからもう少し、この当時の方丈の建物で残っているものを考えますと、番は、上の方に一つ筋が通っています。これは床の間ですね。おそろくこれは、が全てこの姿であるならば、床の間というのがあったかも知れない。で、床の間に続く東側の佛間とのところにまた壁があつて、続いていたことは十分に考えられます。もしこれが「松之間」だったとしますと、佛間との間の、すく横のところに、佛間の西側、上段之間の東側にあたるところには二面の襖絵がある可能性が大きいということになってまいりませう。しかし、上段之間には絵があつたかというところは、今ここでは確認は出来ません。そういう形をとってまいりますと、基本的に妙蓮寺障壁画というものは、元々方丈(客廳)にはめられていたという風に考えて差し支えないと思います。

(京都市立博物館 京都文化資料研究センター長)

(本文は、平成十四年九月十五日に行われた「長谷川等伯展」特別講演会の内容を、当館の責任によってまとめたものです。後半のフライド編は、次号に掲載する予定です。)

ミュージアムショップから

当館ミュージアムショップには図録をはじめ、長谷川等伯関連のグッズが並んでいるのですが、今回はその中からいくつか紹介します。

まずは、気軽に等伯作品を楽しみたい方に『ハガキ』(一枚百円)を。人気の「達磨図」から「海棠に雀図」「波濤図」など約二十種類あります。「自分の空間に等伯作品を...」とおっしゃる方にはA3サイズ(29cm×42cm)の『額絵』(一枚三百円)がおすす。『楓図』『猿猴図』『花鳥図屏風』の三種類があり、額に入れると実に見栄えが良く素敵です!

そして、今年度新発売の『クリアファイル』(一枚三百円)等伯の代表作のひとつ『楓図』が美しく色鮮やかにプリントされたものです。実用的で低価格なので三枚、五枚とまとめ買いされるお客様もいらっしゃいます。いずれも年間をとおして販売していますので、ご来館の折にはぜひ、ミュージアムショップコーナーをのぞいてみてください。

市民ギャラリー 展示会案内

荒木和広展

三月二十一日(金・祝)～三十日(日)

但し、最終日は午後四時まで

中島町に生まれ七尾市で活動する地元作家です。今回は彫塑を中心に、裸婦スケッチ、ポスター、油絵、CG作品を展示します。気軽に御覧下さい。

入場料 無料

後援 北國新聞社・ラジオななお
連絡先 荒木和広 ☎0767(五四)8004

アートホール 催し物案内

夢音港 国際音楽祭 in NOTO 2003

美しい地球の未来のために

一月十九日(日)

PART I ミュージック・クリニック

開演 午後五時五十分/入場料 無料

対象 中・高校生及び一般の楽器愛好者

PART II ミュージック・ライブ

開演 午後七時/入場料 2,000円

主催 夢音港 国際音楽祭 in NOTO 2003 実行委員会

共催 七尾市教育委員会・七尾市文化協会・七尾マリンスティ推進協議会

協力 七尾商工会議所・香りの記念日実行委員会・川への折り実行委員会

連絡先 実行委員会事務局 情報処 へ蔵

☎0767(五二)1111

イ・アンジェリーチ・コンサート

第6回 I Angelici Concerto
～天使たちの音楽会～

二月二日(日) 開演 午後一時三十分

一部は、小さなピアノストによる挿し絵とお話付きの演奏があり、一部は、中学生高校生を中心とした演奏をゲストに、サクソ奏者と声楽家をお招きする予定です。

入場料 無料

主催 万行美幸門下生

後援 北國新聞社・ラジオななお

連絡先 万行美幸 ☎0767(五二)1111

当館主催の催し アートホール

映画上映会【入場無料】

日時 毎月第二・四土曜日 午後二時

・十一月一日・二十五日、二月八日、二十二日

「土と炎と人と清水卯一のわざ」(約三十分)

・三月八日・二十二日

「彫漆 音丸耕堂のわざ」(約三十分)

問合せ先 石川県七尾美術館

☎〇七六七(五三)一五〇〇

平成十四年度

七尾美術館監視ボランティア研修旅行 報告

去る十一月十二日(火)、今年で八回目となる七尾美術館の監視ボランティアさんによる研修旅行が実施されました。今回の参加者は二十三名で、富山県西部の施設三箇所を見学しました。

最初は「高岡市立博物館」で特別展「高岡の

文化財」を観

賞。貴重な作

品を通して皆

さん高岡の歴

史と文化を十

分に満喫して

いました。そ

して次はお隣

りの「高岡市

美術館」へ。

「高岡市美術

作家連盟展」

を観賞しまし

たが、設計者

が七尾美術館

と同じとあつ



参加者の皆様(高岡古城公園にて)

て、建物に注目している方もいらっしやいました。

砺波市内で昼食をとった後は福光町へ移動、「棟方志功記念館 愛染苑」を見学。管理人の方が展示作品や志功のエピソードなどについて丁寧に解説して下さいました。復元された志功の住居では内部も当時のままで、昔を懐かしんでおられる方が多かったのがとても印象的でした。

参加の方々からは「高岡市立博物館に展示されていた長谷川等伯の作品が素晴らしかった」「愛染苑の解説が良かった。福光の方が志功を心から尊敬している事がよく分かった」などの感想をいただきました。

今回も参加者皆さまのご協力を頂き、楽しく意義のある研修旅行を終える事ができました。最後に改めてお礼を申し上げます。

さて、当館では引き続きボランティアさんを募集しています。館内展示室の受付や監視のお仕事です。様々なジャンルの色々な作品と触れ合ってみませんか。お問い合わせは石川県七尾美術館ボランティア係(☎〇七六七(五三)一五〇〇)までお願いします。

2002 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展 子どもワークショップ報告

皆さん、九月二十八日から十月二十七日まで開催しました2002イタリア・ポローニャ国際絵本原画展はお楽しみいただけましたか。

今年はいベントが盛りだくさんでした。十月十四日には、まなびピア石川2002の一環として今年のポローニャ国際絵本原画展実行委員長である末盛千枝子氏の講演会が、十月十九日・二十日には今年のポローニャ展入選作家、

かべやふよう氏の入選作品「だったらいいな」の絵本サイン会がありました。また、アートホールでは子ども映画上映会や団体鑑賞の園児たちを対象に、アニメ映画を上映しました。



「かたん絵本を作ろうよ!」の様子

さて、本題のワークショップですが、会期中の毎週土・日曜日に「かたん絵本を作るうよ!」、九月、十月の最終土曜日に「BOXアートの世界」を開催しまして、県内各地や富山県などから、子ども百二十七人、大人三十五人もの参加がありました。

「かたん絵本を作ろうよ!」は、もこもこ文庫のみなさんのご協力で実施しました。ポスターの裏面を利用して作る冊子を用いて、ストーリーを考え自由にページを飾りつけます。毎年参加してくれるお友達もいて、説明が始まる「知っとるー。もう、三回目やもん!」と嬉しい声も聞こえて来ました。まだ文字を書けないお子さんも絵を描いたページをめくりながら、自分で考えた物語を話してくれました。

そして、今年初めて開催した「BOXアートの世界」では木箱を組み立て、その中に自分だけの世界を作りだしました。何から始めて良いかわからず、最初は戸惑っていた参加者も、様々な材料を前にすると、次々とアイデアが浮かび、手が動きだしました。思わぬ所に思わぬ材料を使う、子どもならではの発想力で、二つと同じ物はない作品が出来あがりました。

これからもワークショップを通して物作りの楽しさを体験してもらいたいと思っています。

平成15年度 石川県七尾美術館友の会会員募集のご案内

新年度友の会会員を次の要領で募集いたします。現在会員の方も更新をご希望される場合は、改めてお申し込みください。お申し込みのない場合は、そのまま退会となってしまいますのでご注意ください。
郵便振替による受付もできますので、ぜひご利用ください。

入会手続きについて

- (1) 年度会費 1,000円
- (2) 受付開始 3月1日(土)
- (3) 受付場所 当館受付カウンターまたは郵便振替で
- (4) 受付時間 午前9時～午後4時30分
- (5) 会員証有効期限 平成15年4月1日～平成16年3月31日

郵便振替による入会手続き

郵便振替用紙をご利用ください。(会員証は4月初旬に「石川県七尾美術館だより」とともに郵送します。)

郵便局備え付けの用紙の通信欄に必要事項《会員の区別(更新・新規・元会員)・郵便番号・住所・電話番号・氏名・生年月日》をご記入の上、会費を添えて最寄りの郵便局窓口へお出しください。

払込料金70円は申込者負担となります。

郵便振替口座 00710 0 50795
加入者名 石川県七尾美術館友の会

会員になられますと...

当館での事業(展覧会、講演会、演奏会など)を掲載した「石川県七尾美術館だより」が郵送されます。
(年度内4回発行)

当館主催の展覧会観覧料が団体料金に割引されます。
(会員本人と同伴者2名まで)

「石川県立美術館」「石川県立歴史博物館」「石川県輪島漆芸美術館」でも観覧料が割引となります
(会員本人のみ)

当館学芸員による特別展の列品解説に参加できます。

1日研修の旅「友の会鑑賞の旅」(年1回)に参加できます。

以上の特典があり、このほかにも当館友の会限定の特別優待(販売グッズの割引など)を予定しています。

* ご注意 *

一旦納入された会費はお返できません。
また、会員証の再発行はいたしません。



平成15年度 市民ギャラリー&アートホールの使用申し込みについて

当館では個展、グループ展、演奏会など幅広い芸術活動の発表の場として、市民ギャラリー&アートホールの貸室を行っています。平成15年度のお申し込みは、1月4日(土)から2月2日(日)までを第1次募集期間として受付いたします。

ご希望使用期間が重複する場合、上記受付期間終了後に調整させていただきます。

展覧会等の関係上、ご利用いただけない期間もございますので、ご利用可能期間につきましてはお問い合わせください。

また、ご希望の方には詳細を説明したパンフレット「利用のご案内(展示室図面入り)」をお送りいたしますので、お気軽にお申し付けください。

市民ギャラリー(全6室+通路)

- ・ 展示面積(全6室+通路).....250m²
 - ・ 展示壁面延長(最大).....137m²
 - ・ 最大天井高.....3.5m
- 1室(27m²)から貸室できます。



アートホール

- ・ 面積.....315m²
 - ・ ステージ幅.....8.5m
 - ・ 客席(固定+可動).....240席
- ピアノ・16ミリ映写機・スライド映写機・OHC等もご利用いただけます。



【お問い合わせ・お申し込み】

〒926-0855 石川県七尾市小丸山台1丁目1番地
石川県七尾美術館 貸館係 ☎(0767) 53 1500

次号・第33号(春号)は4月1日発行予定です。

休館日のお知らせ

(1月～3月)

1月 1～3、6、14、20、27

2月 3、10、12、17、24～28

3月 3、10、17、24、31

交通案内

車.....金沢より能登有料道路
利用約1時間20分

タクシー...JR七尾駅より約5分

徒歩...JR七尾駅より約20分

市内循環バス...JR七尾駅より西回りに
(まりん号) 乗車約6分

